

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4490100056
法人名	たけのこ株式会社
事業所名	グループホーム佐尉郷の驛
訪問調査日	平成20年 1月10日
評価確定日	平成20年 3月27日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4490100056
法人名	たけのこ株式会社
事業所名	グループホーム佐尉郷の驛
所在地	大分市大在中央2丁目8番11号 (電話)097-592-6464

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年 1月10日	評価確定日	平成20年 3月27日

【情報提供票より】(19年12月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 6人, 常勤換算 13人

(2)建物概要

建物構造	木造サイディング 造り・鉄筋コンクリート 造り 1・3 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月27日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	82.7 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鳴田循環器科内科 吉田医院 吉岡歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 地域の一員として、自治会の催しや公民館活動に参加している。特に地域の婦人団体の協力があり、七草粥の会や地域のコスモスの花植え、まつりごと、地域でのラジオ体操など数多くの行事に参加をしている。
2. 外出の機会が日常的になっているため、心身の機能低下の予防が図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価受審である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価には全職員が取り組みその内容をもとに管理者が自己評価票を作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催しており、参加者は、地域の婦人団体の代表や自治会長、民生児童委員、老人会会長、市の職員、地域包括支援センター職員、家族、職員等で意見を出し合い、サービスの質の向上を図っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>開設して間もないため、家族会は一年目で発足したばかりである。今後年に2回苦情や意見が出やすい場を設け、運営に反映したい意向である。また、職員の専門委員会を立ち上げており、今後意見が出やすいような働きかけを期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民との連携は密に図られており、多くの地域の活動や、公民館活動にも参加している。特に、地域住民の協力を得て(自治会長や婦人会)外出支援にもつなげている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は多くの職員で話し合い『利用者・家族の視点に立って、一生懸命まごころのこもったケアを行います』とし、実践しているが、理念に地域密着型サービスとしての役割をめざした内容が盛り込まれていない。	○	これまでの理念に加えて、地域のニーズなどを盛り込んだ地域密着型サービスとしての理念を期待したい。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示している。また、理念を共有するため会議の開催時に確認をしている。しかし、理念が抽象的で具体化されていないため、日々のケアに具体化されにくい状況である。	○	今後、理念の内容を具体化し、日々の取り組みに活かしていくことが求められる。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自治会の催しごと(七草粥の会、川沿いのコスモス植え、名月さま等)に多く参加をしている。特に地域の婦人団体の協力により活動が活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全職員で取り組んでいる。やり方としては、自己評価票は職員一人ひとりに記入してもらい管理者が取りまとめている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的を開催しており、参加メンバーは、自治会長、民生児童委員、老人会会長、婦人会副会長、市の職員、地域包括支援センター職員、家族、職員などと多く、会議で得た情報をもとにサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設して間もないため、疑問点は市の職員の意見を聞くなどし、多くの関わりをもちサービスの質の向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、家族に日々の暮らしの様子や写真を送付しているが、職員の異動は急なため知らせることができず、事後報告となっている。	○	広報誌の定期的な発行を試みる工夫が望まれる。また、職員の異動に際して事前に家族に報告し、不安を少なくすることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は発足したばかりであり、家族の相談、苦情が気軽に言えるような機会が少ない。また、相談や苦情が出やすいように職員の専門委員会を発足したが機能していない。	○	家族だけで年に2回「何でも言える場」を設け、意見をもとに運営に反映したいとホームで考えているので、今後の取り組みが求められる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時、不慣れなため多くの職員が離職をしているため、利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっていない。	○	利用者や家族の不安を少なくするために、利用者にダメージを与えないよう配慮したいとの意向が事業所にあるので、今後、職員の異動に関して、早めに家族に報告するなどの配慮に期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修として、感染症・認知症基礎研修、レクリエーション療法など多くの研修会にパートも含め交代で参加する等、職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりや勉強会等の交流を行っていない。	○	管理者や職員は同業者との交流の場をもち、勉強会や事例検討会などを通じて、日々のサービスや職員の育成に役立つような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、グループホームで過ごしてもらったり、認知症デイサービスを利用しながら馴染みの関係を作り、サービス利用に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりとのふれあいを大切に、喜怒哀楽に関心を寄せ、共に学び支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントは行っているが、十分なコミュニケーションが取れず、個々の意向や思いの把握が十分ではない。	○	家族の希望は聞いているが、今後利用者の暮らしの中で表情や言葉づかいの端々から一人ひとりの思いを把握することが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームで意見を出し合い、利用者一人ひとりの介護計画書の課題は明確であり、サービス内容も具体化している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの介護記録が介護計画書に沿った記録ではないため、見直しの内容を反映していない。	○	介護計画の見直しは一部の職員とするのではなく、実施期間に応じて職員間でケアカンファレンスを行い、見直しを行うことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
意見を					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2ユニットあり、それぞれの独自性を活かし、要望に応じた外出支援、通院、美容車での髪の手入れなど、日常的な外出支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医での医療が受けられるよう通院の援助等を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合やターミナルケアへの対応については、話し合われていない。	○	早い段階において、かかりつけ医や家族、施設の代表を交え、重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、方針の共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の時など一人ひとりのプライドや羞恥心を大切にされた言葉かけや支援を行っている。また、個人情報管理についても玄関に掲示して徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員サイドの決まりごとや都合を優先しないように努めている。しかし「一人ひとりのその人らしさ」を大切にされた支援や希望が十分満たされている状況とはいえない。	○	個々の表情を確認し、家族の意見を大切にしながら、職員会議などで日々のケアを振り返る事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や家族の意見をもとに献立表を作成し、ユニット毎にホーム内で3食づくり、和やかな雰囲気の中、準備や後片付けを利用者と一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向を大切にしたい入浴支援に努めているが、時には職員の都合による入浴(回数・時間など)支援になることもある。	○	一人ひとりの入浴の好みや回数、時間などを聞き、楽しみのある入浴支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	例えば、毎日落ち葉の片付けをしている利用者は生き生きしている。しかし、自分の出番や役割を持っている方は少ない。	○	家族に生活歴や従事していた仕事などの情報を得て、「できること・できないこと・できそうなこと」をアセスメントし、その中で役割・出番の場面を設け、張り合いや喜びの日々が送れるような支援を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って地域の住民の方々との触れあいの場を多く持ち、外出の支援も多く、日常的になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵を掛けずに、利用者の見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や食糧、飲料水等の備蓄はしていない。	○	地震や火災・風水害に備え、早い段階において地域住民の協力を得て避難訓練が求められる。また、水・食糧・毛布など備蓄しておく事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の記載はあるが、専門職による栄養量やバランスについての確認は取れていない。	○	定期的に栄養や食品のバランスなどについて、市の管理栄養士または保健師などの意見を参考にすることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下・台所・居間などの共用空間は生活感(置物・雑誌や新聞・日めくりなど)や季節感などに配慮しており居心地のよさを感じる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームに入る前に、個々の好みのもや使い慣れたものを持参してもらい、畳の部屋や機能にあわせたベッド、仏壇を置く等その人らしさが見えてくる居室づくりである。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 佐尉郷の驛
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県大分市大在中央2丁目8番11号
記入者名 (管理者)	明石 二郎
記入日	平成 19 年 12 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念については共有できているが、理念の実践となる全体の日々のケアに見えてこない。毎日、朝の申し送り時に全員で確認する。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	今後も継続して、地域へ働きかけていきたい。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	取り組んではいるが、まだまだ充分ではないので、今後も交流等を発展させていきたい。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域住民の理解がやっとできてきた状態なので、今後も積極的な活動をし、地域交流を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者むけのサロンを地域の人々を対象に、施設を開放して実施している。また、介護予防教室も地域の高齢者を対象に実施している。	○	今後も活動を継続していく。また、地域の高齢者向けに新たな事業も考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価なので、今回の評価内容を職員全体で共有し、今後の改善に取り組んでいきたい。	○	今回の評価を職員で共有し、よりよい施設作りに活かしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理部が中心となって参加している。参加者からも積極的な意見をいただき、ひとつずつ取り組んでいる。	○	職員全体に運営推進会議のことが共有されていない。管理部だけでなく、職員全体に運営推進会議の必要性と会議で出た内容について連絡し、検討していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは連絡を密に取っている。設立当初の混乱もあり、市には多大の協力を得ている。質の確保と法令順守について、協力関係にある。	○	今後も継続して市とはかかわりを持ち、サービスの質の向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の権利擁護の制度についての知識が全体的に低く、研修等の必要性がある。必要な利用者がいるかどうかの確認さえも充分ではない。	○	職員研修において、成年後見制度等権利擁護制度についての研修を実施し、必要性のある利用者について確認を行っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員会議等で資料を用いて研修を行っている。ケアにおいても虐待については意識して取り組んでいる。	○	虐待の発生を予防する、職場内の意識づくりとシステム作りをすすめたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が中心となって契約を行っている。説明も充分に行い、内容等について不明な点については何度でも相談に応じている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的な会話の中で利用者の意見を聴き出し、ケアに取り入れるよう心がけている。充分な対応とまでは言えないがなるべく取り入れていけるように職員間で話している。</p>	<p>○</p> <p>利用者の意見をケアに取り入れるシステム作りをし、職員全体で利用者がその人らしく生きていくことのできる生活の場づくりをすすめたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回日々の様子や写真等を郵送している。また、面会時にもご家族と話す機会を持ち、日々の様子などをお伝えしている。職員の異動については聞かれたときのみ対応となっている。</p>	<p>○</p> <p>今後とも、月に一回の連絡は続けていく。職員の異動に関しては、できるだけ事前に連絡し、ご家族や利用者に影響がないように心がけていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>1周年記念の際に家族会を発足した。利用者のご家族と良好な関係を維持し、ご家族の意見がケアに反映されるような関係を形成していきたい。</p>	<p>○</p> <p>家族会と良好な関係を形成、維持し今後の施設ケアに家族の意見が反映できるような体制を作りたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員主導の専門委員を施設運営に位置づけ、職員の意見によって施設作りができるようなシステムづくりに努めている。また、職員にも意識付けをしている。</p>	<p>○</p> <p>まだまだ、職員の意見が施設運営に反映されるまでには時間がかかるが、今後とも職員と管理者が協働となって施設作りをすすめる。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>今のところ職員体制や勤務時間についても対応ができている。もう一人常勤職員を確保することができれば、充分な対応が可能となる。</p>	<p>○</p> <p>利用者への対応を一番に考え、勤務時間や職員数の確保に努めたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動によって利用者に影響を与えることを痛感している。今では利用者に配慮を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員の異動等については充分な配慮をし、利用者に影響しないよう配慮していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の職員研修を積極的に進めている。施設内研修が充分でないため今後の課題である。</p>	○	<p>内外の研修を積極的に取り入れる。また、外部の研修を受講した職員が受けていない職員に対して研修を行うシステム作りをすすめたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者レベルでは交流があるが、職員間では実現していない。また、地域のネットワーク構築もまだ未整備である。</p>	○	<p>他の市町村が行っている連絡協議会を設立し、職員間の交流やネットワークの構築を図る。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が、気軽に安全に介護上または人間関係上のストレス等を話せる場を確保している。</p>	○	<p>職員のストレスはケアにおいても人間関係においても、加重にかかる。職員のメンタルヘルスを日常業務に組み込んでいく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>充分にできていない。職員を育てるという土壌が施設に備わっていない。</p>	○	<p>早急に、職員が成長するまたは、育っていく環境づくりに着手する。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前にアセスメントを充分に行っている。その中で、利用者が抱えている不安や課題についても整理して把握し、ケアに反映するように努めている。</p>	○	<p>利用者本人の意見や気持ちを充分受け止められるように、本人からの声を大切に聴いていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>アセスメントの際に家族からの要望等を聴く時間をとっている。</p>	○	<p>利用者の家族の意見を十分に聴き取り、ケア等に活かしていけるように、さらに充分な話し合いの機会を持つことにする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からのアセスメント時の話し合い等によって、ニーズを的確に把握できるように努めている。	○	まだ、十分にできているとは言いがたい。利用者、家族との話し合いからケアへの実践とつながるような仕組みを作る。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を取り入れたり、デイサービスを利用したりと場の雰囲気や職員と顔なじみになることによって利用者の不安を軽減する取り組みを行っている。	○	今後も継続していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する環境づくりを常に意識している。人間同士という出合いを大切にしている。	○	理念にもあるように自分の立場にたって、日々の生活を考えている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の設立により、一方的な関係を起こさせないようにし、良好な関係の形成と、よりよいサービスに活かせるようにしたい。	○	家族会と対話をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までもできる限りのことをしてきたが、家族会の設立により、さらに良好な関係を築きしていく。	○	今後の重要課題であり、前向きに取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った地域のお祭りや行事などに出かけていき、関係の維持に取り組んでいる。	○	今後も継続して取り組む。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーション等を通して、利用者同士の人間関係の形成が図れるように取り組んでいる。	○	今後も継続して支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○	退所した利用者への配慮も今後の検討課題としたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	『その人らしさ』をできる限り十分に把握し、今後もケアを継続していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	『その人らしさ』をできる限り十分に把握し、今後もケアを継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	『その人らしさ』をできる限り十分に把握し、今後もケアを継続していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	今後は、多くの関係者、職員の意見等を取り入れ、協働作業のもとに介護計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	介護計画の変更は、必要性に応じ柔軟に行うが、ご家族や職員との話をもとにすすめることを基本としてすすめる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	モニタリング等を行うケア会議において実施している。	○	より充実した記録や介護計画を目指していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	2ユニットおよびデイサービス等の独自性を活かし、利用者の生活がより豊になるように心がけている。	○	より有効な活用方法を考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	民生委員、ボランティア、教育機関、公民館と協力関係ができています。	○	地域性を活かした取り組みを今後も発展させる。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	入所中における他の介護保険サービスの利用は今までにない。		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	地域包括支援センターと協働して、ケアマネジメントにはあっていない。地域包括支援センターには運営推進会議において協力してもらっている。		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	かかりつけ医を大切にしており、受診の支援もこなっている。	○	かかりつけ医にかかることは精神的な安定にも関わることで、今後とも継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>利用者の受診において関わることもある。ケア上の相談も受診時に奇異知恵いる。</p>	○	専門医の意見をケアに活かしていくように今後も継続して相談をする。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>看護職が配置されている。日々の生活の中で看護職と連絡を密にとりながら生活支援を行っている。</p>	○	医学的かにかが必要な場面があり、看護職との連携は欠かせない状況にある。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>病院関係とは連携を密にしている。</p>	○	今後も継続していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>十分な話し合いがなされていない。</p>	○	お一人お一人との出会いをどれだけ大切にできるのか、そのためには終末期をどのように支援できるのかという話し合いから始めていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>十分な話し合いがなされていない。</p>	○	お一人お一人との出会いをどれだけ大切にできるのか、そのためには終末期をどのように支援できるのかという話し合いから始めていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>家族を含めた関係者と十分な連携をとっている。</p>		他の機関と十分な連絡を取り、混乱のないようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理は充分に行っている。お一人お一人を大切にし、自分たちも年上の高齢者であることを認識し、尊敬した言葉かけをしている。	○ 職員研修や会議において利用者を尊重する態度を心がけるように意識づける。ケアワーカーとしてのプロフェッショナルを目指す。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションをこまめにとり、ご本人の意向を尊重するように働きかけている。また、自己決定の支援はケアの基本であるので、最大限行っている。	○ 今後も継続して取り組んでいく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務が優先されないことがないように、職員間で意識をしながらケアに当たっている。	○ 常に自分たちのケアを振り返るようにケア会議等で心がけていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容美容は、施設にくる専門のお店に依頼をし、お願いをしている。おしゃれや身だしなみが、日々の生活を活性化する効果を理解し、ケアにあたっている。	○ 今後も、その人らしさを重視し、おしゃれに磨きをかけていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が食事を一緒に作り、食事をし、後片付けも行っている。	○ 食事が楽しくなるような働きかけを、今後も工夫していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつやタバコの支援はできている。お酒については、まだ行っていない。	○ お一人お一人に合った嗜好の支援を計画を基に行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p> <p>尿意便意を尊重し、支援を行っている。また、失禁のある方でも排便排尿トレーニングを行い、心地よい排泄習慣ができるように支援している。</p>	○	尿意便意は今後も尊重し、トイレ誘導や声かけを行っていく。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p> <p>時折、職員の業務の流れで日時が決まってしまうこともあるが、なるべく利用者の意向を尊重した形で入浴の支援を行っている。</p>	○	改善点を整理し、入浴時間に対する柔軟対応を今後も継続していく。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p> <p>生活リズムを維持できるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p> <p>レクリエーションや得意なものを日常生活に取り入れている。</p>	○	取り入れる頻度が少ないので、日常生活に張りがでるように、計画を作る。
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> <p>ご本人で管理できる金額を所持してもらっている。時には、外出時に買い物もできるように支援している。</p>	○	外出の機会を確保し、買い物の楽しみの支援をする。
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p> <p>外出の機会はなるべく確保している。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p> <p>行事計画をたて、季節に応じた外出やドライブなどを行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時折、家族との電話での会話の支援をしている。まだ、手紙は実施できていない。	○	様々な通信手段を取り入れ、ご家族との関係を良好に保てるよう支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には、ゆったりと会話等を楽しんでもらえるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては研修等をふまえ、職員全体で絶対に起こらないようにしている。	○	今後も身体拘束に関しては積極的に研修等を行い、決して起こらないようにす。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜21:00から朝7:30までと決めており、それ以外の時間帯で施錠することはない。ケアの必要上施錠が発生するような場合は事前の相談か、事後の報告を必ずするようにしている。	○	施錠に関しては、決まりごとを徹底して守っていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りや声かけを通して行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の安全を第一に考えている。お一人お一人の状況に合わせて取り組んでもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止を考慮した研修が充分ではなく、職員の意識、技術レベルへの働きかけが必要である。	○	事故防止および発生時の対処方法について、内外の研修会等を繰り返し、さらに強化していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	本番を想定した研修会を繰り返し行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	災害時等を想定した避難訓練を早急に計画し、実施する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	○	家族との良好な関係のもとに、十分な話し合いを持っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○	関係医療機関との連携を今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○	さらに創意工夫を取り入れ、日常生活に活動を取り入れ便秘解消を図る。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○	口腔ケアの重要性を職員全員が認識し、ケアに当たる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>記録等で把握し、管理している。記録をもとにケアに活かしている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>感染予防マニュアルがあり、対応している。また、職員研修も実施し対策をとっている。</p>	○	<p>感染予防は常に万全の対策をとり、実践するよう職員会議等で意識付けを行い、実践する。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p> <p>除菌対応の洗剤を使用し、衛生管理を行っている。また、食材に関しても同様に衛生面に配慮している。</p>	○	<p>常に万全な対策が必要であるので、職員全体で取り組んでいる。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p> <p>立地的に道路に面しており、地域の人々が入りやすい状態にしている。</p>	○	<p>実際には、近隣者の訪問は今のところ少ないが、開かれた状態を維持し、ボランティア等も受け入れていく。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> <p>採光や電灯は、良好に保っている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> <p>たたみのスペースやソファ、テーブル等を配置し、好きなところで過ごせるように配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使い慣れているものなどを持ち込めるように働きかけている。筆筒や人形、ふとん等も現在使っているものを持ち込めるようにしている。		
84 〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ユニット内や部屋の中の臭いについては特に気をつけるようにしている。また、温度管理も利用者の体調等を配慮しながら管理している。	〇	温度調節に関しては、外気温などを考慮し、対応していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具等で転倒がないように配慮している。行動が自由に取れるような配置も工夫している。		
86 〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に創意工夫を心がけている。		わかる力を職員全体で把握し、一人ひとりにあった自立支援を計画し実施する。
87 〇建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭を活用して、季節に応じた催しや中庭での食事を実施している。		今後も中庭での活動を計画していく。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		○ ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		○ ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		○ ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		○ ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		○ ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

できたばかりの施設であるので、利用者、家族、職員、地域の人々等本当の意味での地域密着型の施設を作ることができる喜びがある。